

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース／古
川 洋和

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

【学部】

学部の担当授業は「生体メカニズムと生命倫理」が中心となる。

- ①授業内容: 本授業では「自殺」と「暴力」をテーマとし、健康といのちの大切さを理解し、当該事項についての教育を考えることのできるような授業を実践する。
- ②授業方法: 授業は講義形式で行うが、テーマとして取り上げた事項について、グループディスカッションを行い、学生間ならびに学生と教員間での意見交換を行う。
- ③成績評価: 出席とテストによって評価する。

【大学院】

大学院の担当授業は「心理療法研究」が中心となる。

- ①授業内容: 本授業では「認知行動療法」の基本的発想を理解し、医療・教育等の分野での実践の基礎を成すことのできるような授業を実践する。
- ②授業方法: 授業は講義形式で行うが、ホームワークとして、セルフモニタリングや学生間のロールプレイを課し、その結果について議論する。
- ③成績評価: レポートならびに授業への取り組み状況（ホームワーク等）によって評価する。

2. 点検・評価

【学部】

学部の担当授業は「生体メカニズムと生命倫理」であった。

年度目標であった①・③については、当初の予定通りの実践を行った。②については、予想したよりも少ない履修者（出席者）であったため、グループディスカッションではなく、授業で理解したことを学生がまとめ、そのまとめに対して次の時間にフィードバックを行う形式で授業を実践した。したがって、年度目標を概ね達成することができたと考えられる。

【大学院】

大学院の担当授業は「心理療法研究」が中心であった。

年度目標であった①・②・③とも十分に達成することができた。次年度も同様の方法で授業を実践する予定である。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

【教育】

授業では、学生と教員間での双方向授業を展開する。また、卒業後・修了後に実際の現場で活動する学生が多いため、実践を中心とした内容で授業を行う。

実習では、カウンセラーとしての関わり方を中心に、クライアントの問題解決に向けた指導の仕方を理解することに重点を置いて進める。

【学生生活支援】

学生生活支援においては、定期的なオフィスアワーの他にも研究室の訪問を随時推奨し、相談に応じる。

2. 点検・評価

【教育】

授業・実習については、年度目標を概ね達成できたと考えられる。

【学生生活支援】

学生生活支援については、オフィスアワーについては来室者が少なかったものの、研究室訪問は多数の来室者があったため、年度目標を概ね達成できたと考えられる。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

認知行動療法の視点に基づき、以下の研究を遂行する。

- ①医学的処置に対する恐怖症の治療プログラムの開発(若手研究(B):代表)
- ②労働者の「うつ」と「不安」を改善するための自助本の作成と費用対効果の検討(基盤研究(C):分担, 厚生労働科研:研究協力者)
- ③地域に根ざした認知行動療法の実践家の育成

2. 点検・評価

①については、科学研究費補助金の研究代表者として、予定通りの進行状況であった。

②については、科学研究費補助金の分担研究者および厚生労働科学研究費補助金の研究協力者として、予定していた以上の成果を得ることができた。今年度の成果については、報告書ならびに学術論文として公刊予定である。

③については、他大学研究者と連携し、予定通りの進行状況であった。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

臨床心理士養成コースにおける大学院生の定員確保について、学外機関への情報提供ならびに広報活動を積極的に行う。また、大学院生の就職支援についても関連機関への紹介を行う。

2. 点検・評価

臨床心理士養成コースにおける定員確保について、学外機関である出身研究室ならびに共同研究者所属機関へ本学大学院の紹介を行った。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

【附属学校・社会との連携】

附属学校・社会との連携については、スクールカウンセラーとして、臨床心理士としての専門性を十分に活用しながら附属中学校との連携を行う。

【国際交流】

8月に開催される第4回アジア認知行動療法会議にて、鳴門教育大学の広報活動を行い、積極的な交流を図る。

2. 点検・評価

【附属学校・社会との連携】

附属学校との連携については、スクールカウンセラーとして、生徒・保護者・教師への相談援助活動を行った。

社会との連携については、徳島県青少年健全育成審議会委員として、県内の青少年の健康・福祉の向上に寄与することができた。

【国際交流】

第4回アジア認知行動療法会議に参加し、鳴門教育大学大学院臨床心理士養成コースの広報活動を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)